

平成 26 年度 地球環境基金助成事業・県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ(次世代リーダー)実施報告書(5)

特定非営利活動法人ちば里山センター

テーマ	第 5 回 SATOYAMA 活動フィールド実習 3 「生物多様性と実践活動」
日時	平成 27 年 2 月 14 日 (土) 9 時 30 分～15 時 30 分
場所	千葉県立中央博物館研修室 千葉市 大草谷津田生きものの里
出席者	受講生 (31 名) 担当理事 (2 名)・スタッフ 講 師：千葉県立中央博物館 主任上席研究員 尾崎 煙雄 講 師：千葉市大草谷津田生きものの里 フィールドアシスタント 芳我めぐみ
内容	9:30～11:30 「里山と生物多様性」についての講義 千葉県立中央博物館 主任上席研究員 尾崎 煙雄 (昼食後バスにて大草谷津田生きものの里に移動) 13:30～15:30. 千葉市大草谷津田生きものの里のフィールド研修 フィールドアシスタント 芳我めぐみ
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・初めに、尾崎講師による講義。大草谷津田の生き物について生物多様性と関連づけながら説明された。里山の望ましい姿としては生物多様性が見られる自然があること。 ・南房総に「房総の山のフィールドミュージアム」をつくる予定がある。10 年たっているがなかなか建物が立たない。しかし、いろいろ観察調査を進めている。 ・千葉県の県の面積の森林の占める割合は 31.7 パーセント、全国で下から 3 番目であること。 ・里山の自然は (人の伝統的な利用・管理で形成) (多様な環境がモザイク状に混在) (多様な動植物のすみか)。50 年位前里山半人々によって目的を持って使われていて多様な生物がすんでいた。現在はそういう目的がなくなってしまうことが最大の問題である。 ・ニホンアカガエルの 1 匹のメスは 1 年に 1 度しか卵を産まないのので、卵塊を数えればその地域に住むメスの数がわかる。 ・カマキリなど肉食動物がいるということはその餌になる動物がいるということで大事な事。 ・ハンノキ林があり、ミドリシジミがいる。カヤネズミのすみかでもある ・生物多様性条約ができて約 29 年になる。生物多様性の危機①開発や乱獲による種の絶滅、②息地の減少③里地里山などの手入れ不足による質の低下④外来種④地球環境の変化による。 ・里山が荒れているというがどの程度酷いのかデータがない。それを市民が主役になって調べるようになった。2005 年にモニタリング調査が始まり、2008 年に市民調査が始まった。その時マニュアルを作成したが、今日訪れる大草谷津田での調査法が基になっている。鳥類・チョウ類・哺乳類・植物を全国的に調査して変化の様子を分析している。 ・里山の整備についてどうしたらよいかということの答えはなかなか言えないことである。ただ、どのような整備をしたことによってどのような変化が起こったかということをしきりと把握し、そのあとの整備について考えるということをしてほしい。 ・市民調査の拠点は全国で 200 ヶ所、千葉県内は 7 ヶ所ある。 ・大草谷津田生きものの里に移動し芳我講師と尾崎講師の解説によってカエルの卵塊や調査方法を具体的に体験した。・大学生が管理している部分や市民参加のイベントの様子など拝聴。またゆっくりと訪れたいフィールドだった。

添付資料（写真）

 <p>尾崎講師</p>	 <p>モニタリングサイト 1000 の説明</p>	 <p>大草谷津田の案内板</p>
 <p>尾崎講師と芳我講師</p>	 <p>竹の進出</p>	 <p>芦原だったが場所。水が出なくなって今は育たない</p>
 <p>二ホンアカガエルの卵塊（竹は数えた印。メスは1年に1卵塊しか生まないので卵塊の数＝メスの数）</p>	 <p>谷津田の調査の説明</p>	 <p>谷津田の風景</p>
 <p>耕作放棄田にはハンノキが生えてくる</p>	 <p>大学生が管理している田 田植えから収穫までのイベントもある。</p>	 <p>案内板</p>
 <p>流れを作っている部分の観察 二ホンアカガエルは流れのないところに卵を産み、アカガエルは流れのある処に産むというので、流れをつくらせて観察しているとのこと。 カワニナの姿が見られた。</p>	 <p>芯腐れしている山武杉が多い</p>	 <p>整備されている高台の部分 報告書作成：杉田初代</p>